

令和7年度
マニフェスト実施状況の評価



奄美市長 安田 壮平

評価の方法

奄美市長安田壮平が市民の皆様にお示しした８８項目のマニフェストの進捗状況（進み具合）を、５段階で評価しています。また、マニフェストの５つの柱ごとに、これまでの取組を「活動の記録など」として文章でまとめています。

【マニフェストの５つの柱】

I 新型コロナ対策

II 持続可能に「かせぐ」地域づくり

III 安心して、ゆたかにくらせる「まもる」地域づくり

IV 次世代を育む好循環を生み出す「そだてる」地域づくり

V 市民に身近で頼りになる基盤づくり

【５段階評価の考え方】

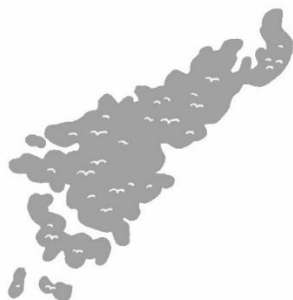
本評価作業での評価の考え方は次のとおりです。

- ５ ＝ 公約に掲げた項目が実現し、成果も出ている
- ４ ＝ 公約に掲げた項目への取組が前進している
- ３ ＝ 公約に掲げた項目に対して、従来の取組の拡充・改善や新たな取組への具体的な着手が進められている
- ２ ＝ 公約に掲げた項目に対して制度の検討などが進められている
- １ ＝ 公約に掲げた項目に対して制度研究などを進める必要がある

I 新型コロナウイルス対策	4.2
【1】新型コロナウイルスから市民のいのちを守ります。 令和5年5月より、新型コロナが感染症法上の5類に移行したことにより、法律に基づき行政が要請・関与する段階から、市民の皆様の自主的な取組を基本とした対応になりました。6年度より定期予防接種に位置付けられ、費用負担の助成を行っています。7年度は「新型インフルエンザ等対策行動計画」の改訂を行い、感染症に強い地域づくりを進めています。	4.5
【2】新型コロナから地域を守るため、水際対策を強化します。 関係機関が連携して、空港や港でのPCR検査や検温ができる体制を整えました。また、来島者に対してはホテル・レンタカー事業者と連携して、周知啓発活動を行ってきました。	4.0
【3】新型コロナから地域経済を守ります。 国の交付金や財政調整基金などを活用して、各年度において、新型コロナ緊急経済対策事業やその後の物価高騰に対する緊急対策事業などを行い、地域経済の下支えをしました。	4.0

I 期目に取り組んだ主な事業

事業所支援給付金事業（R4）
 第三者認証店舗応援プレミアム商品券発行事業（R4）
 タクシー事業者等支援給付金事業（R4）
 エネルギー価格高騰対策支援金事業（R4）
 くらし応援ほーらしゃ券発行事業（R5）
 新型インフルエンザ等対策行動計画策定（R7）など



Ⅱ 持続可能に「かせぐ」地域づくり		4.1
○観光客一人当り消費額の増加を目指す取り組みの強化		4.3
	【4】観光・交流の高度化・高付加価値化を推進します。 観光庁事業を活用した民間宿泊施設のリニューアル支援、地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業（奄美・沖縄エリア）への参画などを行いました。一人当り観光消費額が令和3年65,082円から6年73,594円に伸びました。	4.5
	【5】世界自然遺産の価値を守る公民連携の組織をつくります。 「世界自然遺産保全・活用プラットフォーム」を設置して、公民連携会議を開催し、自然環境保全のための新たな財源の検討、観光資源の調査、脱炭素・温暖化防止計画策定、観光満足度向上への提言などにつなげ、様々な事業や施策に反映しました。	4.5
	【6】観光や特産品の情報発信・広報を強化します。 タレントのIMALUさんと連携した地域課題解決への取組や情報発信を行い、本市の様々な魅力や価値の発信に努めました。また、国際交流員が国内・海外に向けた外国語での情報発信をサイト「EXploreAmami」やSNSにより行っています。	4.0
	【7】新しい価値観に基づく観光・交流の多様化を推進します。 住用町における、世界自然遺産を活かした「かせぐ」地域づくり調査事業を行い、住用版地域創生戦略における集落ガイド育成事業による人材育成などにつなげています。また、「つなぐ未来へ観光×環境保全促進事業」では島外からの修学旅行誘致につながる企画などもありました。	4.5
	【8】観光・交流の経済波及効果拡大を実現します。 観光客のリピーター率が令和3年34.64%から、6年40.6%に増加。また、ふるさと納税のリピーター率も3年23.45%から6年34.8%に増加しました。8年度は「観光需要喚起特別対策支援事業」を行い、誘客促進による市内消費の拡大を図り、幅広い業種への経済波及効果拡大を目指します。	4.5
	【9】ユニバーサル・ツーリズムの展開を進めます。 「ユニバーサルツーリズム受入体制整備費助成事業」を実施しました。また、県が実施する「おもてなし研修会」の周知広報への協力も行っています。	4.0
	【10】南西諸島での人の流れや物流を活発化します。 奄美群島振興開発特別措置法の拡充で「沖縄との連携」が明記されたことにより、郡島民の航空航路運賃の軽減や農林水産物等輸送コスト支援が沖縄本島も対象となりました。また、奄美大島とやんばるでの高校生交流事業、奄美大島と屋久島とのエコツアーガイド交流事業などを行っています。	4.0
	【11】国内・海外からの誘客を促進します。 令和5年度までは「訪日外国人観光客等受入体制整備費助成事業」を実施、その後は「ユニバーサルツーリズム受入体制整備費助成事業」を継続しています。また、クルーズ受入体制強化事業を継続し、来航状況もコロナ前近くに回復してきました。あまみ大島観光物産連盟による「インバウンド分科会」により、官民連携してさらなる誘客を目指します。	4.0

○「かせぐ地域」をつくる経済政策	4.0
【12】全ての中小企業・個人事業者支援を推進します。	4.0
令和6年度までは「政策連携による多様な働き方モデル創出事業」、7年度からは「奄美らしいWorkstyle創出事業」を実施。あまみ創業塾やフリーランス寺子屋による新たな創業と個人のスキルアップ支援に加えて、コミュニティマネージャーによる相談業務を実施し、中小企業や個人事業者を支援しています。	
【13】「食と農の総合戦略」をつくり、実行します。	4.0
令和7年度に市民の皆様からたくさんのご意見を頂き、「食と農の総合戦略」を策定しました。今後も官民連携を強化しながら、「食と農」について市民の皆様にご自身事として考え、行動していただけるような取組を進めます。	
【14】農業支援を継続・強化しつつ、スマート農業を推進します。	4.0
さとうきび生産振興対策協議会への支援や肉用牛生産基盤維持緊急支援事業、重点品目生産拡大対策事業などを継続し、また、肥料・飼料高騰対策事業なども実施しました。スマート農業については、さとうきび受託組合事業の中での取組も推進していきます。	
【15】新規・若手就農者への支援を強化します。	4.0
経営発展支援事業、経営開始資金、農業研修制度、農地中間管理事業などを活かして、ソフト・ハード両面からの支援を行っています。また、「あまみ創業塾」でもマーケティングの支援などを行っています。	
【16】付加価値の高い農林水産物や加工品の生産支援を行います。	4.0
コーヒーの新規栽培について農地探しの支援をしたり、「加工品販路拡大支援事業」で海外展開への補助率を上げたりして支援を行いました。また、笠利地区において農村環境改善センターへの食品加工施設の集約を図っています。	
【17】「かせげる漁業」づくりに取り組みます。	4.0
「漁業経営安定化支援事業」や県大島支庁の魚食普及の取組への連携、奄美漁協荷捌き施設の宇宿漁港への移転支援などを行い、「かせげる漁業」づくりを後押ししています。	
【18】ものづくりと販売の支援を推進します。	4.0
令和6年度までは「政策連携による多様な働き方モデル創出事業」、7年度からは「奄美らしいWorkstyle創出事業」を実施して、フリーランスを支援しました。フリーランス寺子屋における講座や奄美ハンドメイド大賞（大賞受賞者は東京で開催される全国ハンドメイド展に出展）ハンドメイドマーケットの開催等を行いました。また、「加工品販路拡大支援事業」もご活用いただきました。	
【19】情報通信産業の企業・仕事・人材誘致を推進します。	4.0
関東・関西で開催される、県主催の「企業立地懇話会」に参加し、トップセールスを行うとともに、情報通信産業を含めた様々な企業の進出ニーズ把握などに取り組みました。また、この4年間に情報通信企業3社との立地協定を締結しました。	
【20】地元産業と情報通信産業の提携を強化します。	4.0
ICTフェアなどイベント等を通じた意見交換の場を創出し、地元企業と情報通信産業との連携・提携を促進しました。また、「デジタル活用啓発事業」で様々な優良事例を紹介するとともに、本市独自の「デジタル活用補助事業」でデジタル活用の後押しをしました。	
【21】民間との連携強化により、投資や実証実験を呼び込みます。	4.5
プロジェクト推進課内に「官民連携推進室」を設置して、様々な企業・団体との連携協定に基づく取組を行いました。行政情報の発信・バイオガス発電・健康づくり・地域内経済循環・ICT活用やDX推進など、実証実験・実証事業導入を進めました。	
【22】主要インフラの整備を進めます。	4.0
国道58号住用町城地区、同笠利町喜瀬地区、県道笠利町宇宿・城間地区などについては、事業実施主体の県と毎年協議をして、要望を行っています。本市が事業実施主体の道路・橋りょう・上下水道の整備・維持について、事業計画に基づき着実に進めています。	

Ⅱ 持続可能に「かせぐ」地域づくり

Ⅰ 期目に取り組んだ主な事業

世界自然遺産公民連携プラットフォーム事業 (R4～)
世界自然遺産を活かした「かせぐ」地域づくり調査事業 (R5)
ユニバーサルツーリズム受入体制整備事業 (R6～)
クルーズ船受入体制強化事業 (R6～)、
肥料・飼料価格高騰対策事業 (R4)
公共施設等民間提案制度 (R6～)
航空・航路運賃軽減事業の沖縄拡充 (R6～)
農林水産物等輸送コスト軽減事業の沖縄拡充 (R6～)
マングローブパーククリニキュアル整備事業 (R6～)
ローカル10,000プロジェクト事業 (R7～)
県外就航路線利用促進事業 (R7)
あまみフルーツアイランド確立事業 (R7～)
「食と農の総合戦略」策定 (R7)、土盛海岸周辺環境整備事業 (R7～)
奄美漁協荷捌き施設機能移転事業 (R7～)
稼ぐ力の向上に向けた創業・事業拡大支援事業 (R7～)
奄美らしいWorkstyle創出事業 (R7～)
ちょこっとお仕事作成セミナー (R7)
デジタル活用啓発事業 (R7)
あやまる岬観光公園遊具整備事業 (R7)

【R8新規等】

食と農の総合戦略推進事業
奄美市さとうきび振興対策協議会緊急負担金
認定新規就農者経営開始資金(拡充)
観光需要喚起特別対策支援事業
バンガロー改修事業
おがみ山公園展望台整備事業 など



Ⅲ 安心して、ゆたかにくらせる「まもる」地域づくり		4.1
○「ウェルネス」を高める医療・地域福祉の充実		4.1
【23】医療との連携を強化し、市民の健康づくりを進めます。		4.0
奄美市内の病院・診療所が現状に対してどのような認識でいるのか、課題があるのかを議論していただくテーブルとして「奄美市医療懇話会」を実施しています。令和7年度はアンケート調査によって、医療機関の思いと今後の課題が洗い出されてきました。今後はその課題に対して、それぞれの立場での取組を考察・実践してまいります。また、令和7年度より带状疱疹ワクチン接種費用の一部助成なども実施しています。		
【24】「断らない命と福祉の相談窓口」を設置します。		4.0
名瀬本庁舎2階に「つながる相談室」を設置して、市民の皆様の健康や安全を守ることに努めています。ワンストップで様々な相談に対応し、庁内や関係機関につなぐなど、問題解決に導く伴走をしています。		
【25】健康に年を重ねられる地域づくりを進めます。		4.0
「地域健康教室」や「ころばん体操教室」、男性向けの健康教室や料理教室等、高齢者の健康づくりにおける多様なニーズに対応し、地域のつながりの促進を図っています。また、令和4年度から「高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業」を行い、健診データや医療レセプト等を活用し、フレイル予防や病気の重症化予防に取り組み、健康寿命の延伸を目指しています。そして、同じく4年度から実施している老人クラブ連合会フェスティバルの開催を支援しています。		
【26】元気な高齢者の就労づくりを支援します。		4.0
高齢者を含めた雇用者確保のため、働きやすい職場づくり応援事業補助金や人材確保・就職支援給付金等により事業所支援を実施したほか、事業所における「業務の切り出し」を促進し、潜在労働力の掘り起こしを行いました。実際にシニア世代の就業者数は伸びています。		
【27】高齢者の尊厳をまもる取り組みを強化します。		4.0
大和村、宇検村と共同で「成年後見制度利用支援事業」を実施し、社会福祉協議会に中核機関を委託しています。また、成年後見制度の市町村長申請にも取り組んでいます。「認知症総合支援事業」により、認知症の方やそのご家族の支援体制の構築を図っています。その他高齢者虐待についても地域包括支援センターにて対応しています。民間企業との連携により「終活ノート」の希望者への配布も行いました。		
【28】介護人材などの確保・育成に取り組みます。		4.0
「進路ガイダンス事業」により、官民連携して小中高校生への医療・介護・福祉専門職の魅力発信に努めています。また、介護業種を「支援強化業種」として指定し、一定期間の就労実績に基づく給付金事業の実施と合わせて、「介護・福祉魅力アップセミナー」を開催し、人材の確保と育成に努めています。あわせて、海外人材の住まいの確保にも様々な支援を実施しています。		
【29】重度心身障害者等医療費制度の手続き簡素化を進めます。		5.0
県への要望を行い、令和6年8月より自動償還払い制度を実施。これにより、手続きの簡素化が図られました。また、18歳以下については「子ども医療費給付事業」により窓口負担がゼロになりました。		
【30】障がい者の収入が増す取り組みを目指します。		3.5
障がい者就労施設等からの物品等の調達推進方針を定め、その実績を本市HPで公表しています（私自身の名刺も、一部は同施設に発注しています）。また、「業務の切り出し」による障がい者等の雇用促進に取り組みました。		
【31】誰もが住みやすい地域づくりに取り組みます。		4.0
笠利・住用庁舎や都市公園のトイレの洋式化を計画的に進めています。また、本市主催の講演会・シンポジウムなどにおいて、要望を頂いた上での要約筆記派遣の充実に努めています。		
【32】公共施設における分煙環境を整備します。		4.0
名瀬本庁舎別館、アマホームプラザ、アイアイひろばの3施設に新たに分煙環境を整備しました。		

○市民の暮らしと安全をまもる地域防災・防犯の強化		4.1
【33】災害に応じた避難所等の増設・充実に取り組みます。		4.0
コロナ禍においては、感染症に対応した避難所運営を実施しました。また、津波警報発令の際には庁舎を避難所として開放するとともに、台風来襲時において庁舎内に福祉避難所を設置することにも努めました。また、国の行政機関や民間企業と連携して、津波避難場所を増設しました。		
【34】災害情報の伝達を強化します。		4.5
笠利町におけるコミュニティFM難聴地域を解消するため、中継局を更新および新設しました。また、防災行政無線放送の難聴世帯向けに防災ラジオを配付しました。企業版ふるさと納税による衛星電話の増設や、スターリンク（移動式衛星通信機材）の導入も予定しています。		
【35】民間企業・団体の防災に向けた取り組みを支援します。		4.5
金久中学校給食室を備蓄倉庫として貸出、青山商事株式会社との包括連携協定締結、九州電力送配電株式会社との事前伐採協定締結など、複数の企業・団体との連携により防災強化に向けた新たな取組を推進しました。		
【36】ペット同伴可能な避難所の整備を進めます。		4.0
ペット防災の会との連携により、名瀬・笠利・住用それぞれに、同室避難ができる施設を確保しました。また、本市総合防災訓練時に3か所において避難所開設訓練を実施しました。		
【37】防災・減災を進める治山治水事業を進めます。		3.5
県とも連携しながら急傾斜地対策への協力や流域治水プロジェクトへの参画をしたり、緊急浚渫推進事業により河道掘削や伐採を行ったりして、防災・減災に努めています。		
【38】防犯カメラやドライブレコーダーの設置を進めます。		4.0
全公用車へのドライブレコーダー設置を進めています。また、自治会や集落会がない地域における防犯灯の設置も進めました。市内主要交差点における防犯カメラの設置は、諸事情により一旦見送りましたが、今後も引き続き、検討を進めていきます。		
○世界自然遺産の価値をまもる環境保全の強化		4.2
【39】「奄美大島生物多様性地域戦略」を活用・推進します。		4.0
奄美大島5市町村からなる自然保護協議会で作業を進め、「奄美大島生物多様性地域戦略」の改訂を令和7年度に行いました。また、金作原エリアの利用ルールの見直しと試行を実施しました。そして、高校生世代による沖縄との交流事業も実施しています。		
【40】生活環境の美化をまもるためのしくみをつくります。		4.5
不法投棄防止パトロールや海岸漂着ごみ回収などの既存事業を進める中、ごみポイ捨て防止などの普及啓発に努め、職員による通勤時のごみ拾いプロジェクトを始めました。また、近年は企業や民間団体、NPO法人によるビーチクリーンなどが本市と連携したり自主的な取組として実施されたりして、生活環境美化意識が高まりつつあります。また今後、下方地区に「リサイクルステーションハウス」を設置し、資源化促進に取り組んでいきます。		
【41】環境保全に特化した、地域独自の財源をつくります。		4.0
「世界自然遺産保全・活用プラットフォーム」から提言を頂き、設置した「世界自然遺産に関する新たな財源検討委員会」から財源確保の方策として宿泊税導入が妥当との答申が出され、導入に向けた取組を進めています。具体的には、特別徴収事業者となる宿泊事業者への説明会を開催し、頂いた意見・課題・懸念事項等について先進地等の情報収集を行っています。取組の現状について、市HPで公開しています。		

Ⅲ 安心して、ゆたかにくらせる「まもる」地域づくり

Ⅰ 期目に取り組んだ主な事業

高齢者の保健事業と介護予防の一体化事業(R4～)
「防災ラジオ」の導入(R4～)
「つながる相談室」の設置(R5～)
認知症フレンドリー・プロジェクト(R5～)
小中学校のトイレに生理用品設置(R5～)
「世界自然遺産に関する新たな財源検討委員会」の設置(R5～)
ペット同室避難施設の確保(R6～)
重度心身障害者医療費助成の申請手続き負担軽減(R6～)
赤木名地区用途廃止市営住宅移転支援事業(R6～)
奄美市医療懇話会(R7～)
带状疱疹ワクチン接種費用の一部助成(R7～)
認知症のみなさんとゆらってまちづくり事業(R7)
奄美・沖縄世界自然遺産地域交流事業(R7～)
世界自然遺産に関する新たな財源導入準備事業(R7～)
集落防災訓練モデル事業(R7～)
食料品ストック機能強化支援事業(R7～)
やさしくなれる分煙環境整備事業(R7)
民有地危険木伐採費用助成金(R7～)
進路ガイダンス事業(R7～)
防災行政無線費更新事業(R7～)
都市公園環境保全事業(R7～)

【R8新規等】

D-1プロジェクト 運動情報ステーション
消費者教育推進事業
くっきりすっきり伝わるコミュニケーション事業
5歳児健診
大腸がん検診費用の無料化(令和8年度から3年間)
希少野生生物ロードキル対策実証事業
「地域防災マネージャー」の任用に向けた取り組み など



IV次世代を育む好循環を生み出す「そだてる」地域づくり		4.2
○「地域の宝」を育む子育て支援の充実		4.2
【42】子育て世代への支援を強化します。		4.5
子育て世代の不安に寄り添う相談体制や情報発信を、官民連携して強化してきました。子ども家庭総合支援拠点の設置、子育て支援ポータルサイトの開設、民間提案型子育てサービスの創出やその広報強化など。また、「未来応援はぐくみプロジェクト」により、不妊検査や男性不妊治療などへの助成を拡充し、子を授かりたい気持ちに寄り添う支援に取り組んでいます。		
【43】待機児童ゼロの維持に取り組めます。		4.0
重点政策推進監を設置するとともに、現在の待機児童の状況及び保育現場の実態を分析し、小規模保育所の整備や保育士確保対策事業等を実施。市内保育施設の人材確保や働く環境整備を進めて、年度当初の待機児童ゼロを維持しました。		
【44】子育て世代の復職・就業支援に取り組めます。		4.0
フリーランス支援事業において、子育てフリーランスの育成を図りました。また、「業務の切り出し支援」により、就業支援に取り組めました。そして、奄美大島雇用創造協議会の地域雇用活性化推進事業において、子育て世代の求職者向け等の職場見学バスツアーや各種セミナーを行いました。		
【45】子育て世代への経済的支援に取り組めます。		4.5
令和7年度より、18歳までの子ども医療費の窓口負担をゼロにしました。また、8年度より小中学校の給食費を無償化するなど、様々な経済的支援に取り組んでいます。		
【46】子どもの貧困対策を強化します。		4.0
令和5年度に「子どもの家庭生活実態調査」を実施し、その結果をもとに6年度に「子どもの困ったをなくそう！子ども対策事業検討会議」を開催して事業の検討を進め、8年度より子どもの居場所づくりを支援するための「児童育成支援拠点事業」を実施します。		
【47】療育・発達支援を強化します。		4.0
令和6年度より「子ども通院費等支援事業」により、島外医療機関への通院等に要する交通・宿泊費の支援をしています。また、8年度より「医療的ケア児保育支援事業」や5歳児健診を開始するとともに、市内小学校に「病弱・身体虚弱特別学級」を開設して、療育や発達支援の強化に取り組んでいます。		
【48】学童保育不足の改善に取り組めます。		4.5
令和7年度より、民間公募により新たに朝日小校区に2クラス、小宿小校区に1クラスを新規開設しました。また、8年度より知根小校区に新たに1クラスを開設します。		

○「次世代の地域の担い手」を育む教育の強化		4.3
【49】ICTの活用による学力向上に取り組みます。		4.5
「GIGAスクール構想」による小中学生一人一台配付のタブレット端末の活用を図るため、学習eポータルやAIドリルを導入して、習熟度に応じた学習ができるように努めています。また、オフラインでの学習を想定した教育用アプリの導入により、持ち帰り学習を推進する環境を整えました。令和8年度より、新たに「ICT支援事業」を行い、教職員のさらなる資質向上・業務改善を図ります。		
【50】インターネット教育の推進		4.0
中学校において、プログラミング教育のアプリを導入して、より専門的かつ根本的な学びができるよう努めています。また、「メディアの適正利用講演会」などの出前講座を実施して、子どもたちや保護者・教職員におけるネットリテラシーの向上を図っています。		
【51】郷土教育・ふるさと学習の充実に取り組みます。		4.5
「あまみっ子ふるさと学習支援事業」を継続して、各小中学校区の地域性に合わせた郷土教育・ふるさと学習に取り組んでいます。令和8年3月の本市市制施行20周年記念式典においても、小中高生の代表が地域に根差したスピーチを行いました。		
【52】社会経済教育・職業(キャリア)教育の充実に取り組みます。		4.0
令和6・7年度、民間団体によるキャリア教育イベントの支援をいたしました。また、7年度より、大手菓子メーカー・ロッテ社と提携した「新たなスイーツ・おみやげ品づくりワークショップ」を開催しています。本事業を通じて、将来の職業を考える一助となることを期待しています。		
【53】不登校支援の充実に取り組みます。		4.5
総合教育会議で度重なる議論を行い、令和7年度より「あまみ不登校対策プロジェクト」を実施。教職員向け各種研修の充実、心の健康観察の全校実施、スクールソーシャルワーカーの増員などを行いました。また、8年度より市内中学校1校にスペシャルサポートルームを設置しています。民間のフリースクールとの連携・協力も図っています。		
【54】学校におけるいじめ問題の改善に取り組みます。		4.0
子どもや保護者がいつでも気軽にオンラインを含めた多様な手段で、いじめや暴力などについて相談ができる環境を整えました。また、生徒指導ハンドブックの活用や生徒指導審議委員会を中心とする再発防止対策を進めました。いじめの積極的認知を前提として、組織的な支援体制の強化に努めています。いじめ重大事態が発生しており、調査委員会を立ち上げて丁寧に対応していきます。		
【55】本土遠征への支援の充実に取り組みます。		4.0
令和4年度より、九州大会以上の児童生徒の文化系・スポーツ系の大会出場等にかかる遠征費の補助を、高校生まで拡充するとともに、本補助事業を企業版ふるさと納税の対象事業としました。また、8年度より、補助率を引き上げて拡充しました。		
【56】高校の魅力向上を支援します。		4.5
令和6年度より、「地域共創による高校みらいコンソーシアム事業」を実施して、市内3高校の魅力向上を図っています。また、7年度より奄美群島広域事務組合として「高校生サミット」の財政支援を実施し、群島内の高校における探究的学習やその発表・交流の場づくりの支援をしています。		

○大人の学び直しや文化・芸術・スポーツ活動への支援強化		4.2
	【57】学び直しや生涯学習の充実に取り組みます。	4.5
	包括的パートナーシップ協定を締結しているSchoo社によるオンライン学習プログラムの普及・活用を図り、個人や事業者の利用登録も年々伸びています。また、生涯学習講座の多様化も進め、「みんなの奄美学」「もっと知りたい田中一村」など時宜をとらえた講座の開設も行われています。	
	【58】文化・芸術活動の活性化に向けて支援を強化します。	4.0
	毎年恒例の市民文化祭、市美術展覧会に加えて、令和5年度に「県民文化フェスタ」、4年度から3年をかけて県・島内4町村と合同で「ほこらしゃ奄美音楽祭」を開催するなど、多様な文化・芸術に触れる機会を創出するとともに、市民による活動成果発表の場も多く設けています。8年度より、「アートを活かしたまちづくり事業」にも取り組みます。	
	【59】鹿児島国体相撲競技開催への機運づくりを強化します。	5.0
	令和4年度のプレ大会、5年度の本大会と地域全体を挙げて盛り上げることができて、素晴らしい大会を開催することができました。多くの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。国体に出場した選手が大相撲で活躍したり、後年度開催の佐賀県玄海町と交流をしたりするなど、国体によるレガシーの継承・発展にも努めてまいります。	
	【60】「チャレンジスポーツ」の島づくりに取り組みます。	3.5
	民間団体主催の「奄美ヨーリヨーリラン」や「オープンウォータースイム」などの開催に様々なかたちで協力しました。また、自転車競技の合宿なども行われ、交流させていただきました。	
	【61】スポーツ環境の整備に向けて取り組みます。	4.0
	名瀬三儀山運動公園、笠利町太陽が丘運動公園、住用町奄美体験交流館など、年次的に様々な事業を行い、スポーツ環境の整備に努めています。令和8年度、太陽が丘での（仮）多目的グラウンド整備に向けて、用地取得を進めてまいります。	
	【62】eスポーツの振興に向けて取り組みます。	4.0
	令和7年度に市制施行20周年に合わせて「eスポーツ普及啓発事業」を実施しました。今後は福祉施設等への関係機材の貸出や民間団体の支援を行うことで、eスポーツの周知や利活用の拡大を図ります。	
	【63】奄美群島日本復帰運動の伝承強化に取り組みます。	4.5
	令和5年の復帰70周年の際には、奄美博物館で記念企画展を開催したり、官民連携して23のメモリアル事業を実施したりして、「語り継ぐ～次世代へ」というメッセージを世代を超えて共有しました。7年度も「名瀬小学校石段のつどい」を開催したり、県立伊集院高校演劇部の復帰劇「朝は明けたり」の公演支援をしたりして、さらなる継承に努めています。	

○人口減少に歯止めをかける移住・定住支援の強化	4.2
【64】移住希望者に寄り添う相談窓口を設置します。 窓口での移住相談受付に加えて、オンラインでの移住相談や大都市圏（東京・大阪）での出張移住相談を実施しています。令和7年度より、空き家対策を専門とする地域おこし協力隊による相談対応も実施しています。また、人材確保・就職支援事業などによる経済支援などにも力を入れております。	4.0
【65】地域の空き家を活用した移住促進策に取り組みます。 令和6年度より「空き家解消による住環境総合対策事業」を実施して、名瀬・住用・笠利に地域おこし協力隊を配置し、各地域・集落の実情に合った空き家解消・活用策を図っています。7年度より家財道具の処分費用を補助事業の対象とし、また8年度より「第二期空き家等対策計画」を策定して、さらなる推進を目指します。	4.5
【66】あらゆるニーズに対応できる関係人口づくりに取り組みます。 令和4・5年度にワーケーション施設・設備整備のための支援事業を行うとともに、5年度以降は誘致事業として交通費・宿泊費などの支援を行い、関係人口創出に努めています。また、民間と連携したお試し移住の環境整備にも取り組んでいます。	4.0



○これからの課題に対応できる地域づくり	4.1
【67】笠利・住用などにおける「地域創生戦略」づくりを進めます。 令和6年度に両地域に民間委員からなる地域創生戦略策定審議会を設置して、本市総合計画「未来の奄美市づくり総合計画」に基づいた議論を行い、笠利版・住用版それぞれの地域創生戦略を策定しました。7年度より実行フェーズに移り、優先順位を決めて各種事業を行っています。	4.5
【68】地域おこし協力隊の導入など、外部人材を活用します。 令和4年度以降に地域おこし協力隊・地域活性化企業人制度の活用、政策アドバイザー制度の導入などを行うとともに、6年度より空き家の解消・活用を図るため、名瀬・笠利・住用に1名ずつ地域おこし協力隊員を配置して、目的達成に向けて取り組んでいます。	4.5
【69】広域的自治組織の活用に向けて、研究を進めます。 市内8地区において「地域支え合い体制づくり事業」を継続する中で、奄美地区など広域的自治組織の要素や性格を持つ活動が進められてきました。令和8年度より「地域コミュニティ推進事業」として、市民が主体的かつ継続的に地域づくりに取り組むための枠組「地域運営組織」の体制づくりを目指します。	4.0
【70】買い物難民対策を進めます。 令和5年度より市内全域を対象に「繁盛店づくり支援事業」を行い、笠利・住用の個人商店なども含めて集客力向上のための支援を行いました。また、鹿児島県が実施する買い物支援の取組とも連携を図ってまいります。	4.0
【71】交通弱者対策を進めます。 令和6年度に「奄美大島地域公共交通計画」「奄美市地域公共交通計画」を策定し、大島全体や本市における公共交通のマスタープランを作成しました。これに基づき、各地域において路線バス等の公共交通手段の維持に努めるとともに、住用・笠利地区において「自家用有償旅客運送事業」を導入し、住用地区はデマンド（予約）型、笠利地区は定時定路線型で運用して、買い物や通院などに利用されています。	4.0
【72】商店街の空き店舗対策を進めます。 「あまみ創業塾」による様々な創業支援、「にぎわうまちづくり支援事業」によるチャレンジショップ実施への支援など、空き店舗対策に資する取組を進めています。	4.0
【73】新しい発想や手法による商店街づくりに取り組みます。 令和4年度に策定された、奄美市通り会連合会による「なぜまちまーじんゆらおう計画」により官民連携して様々な取組を展開しています。また、「にぎわうまちづくり支援事業」により、屋仁川通りを含めた中心市街地やマリンタウン地区でのイベント開催や様々な取組を後押しして、にぎわい創出と活性化に努めています。	4.0
【74】小さなコミュニケーションを生むしかけをつくりまします。 「なぜまちまーじんゆらおう計画」に基づき、商店街アーケードにベンチやテーブルが設置され、本市も協力して子どもたちの遊具も配置されています。また、民間団体に協力して、小浜町うどん浜公園にアートベンチが設置されました。市街地各地の身近な公園においても、計画的に遊具や休憩施設等の更新を進めています。	4.0

Ⅳ次世代を育む好循環を生み出す「そだてる」地域づくり

Ⅰ期目に取り組んだ主な事業

まーじん子育て応援事業(子育て支援ポータルサイト開設)(R4~)
保育所等給食支援事業(R4~R5)
学校給食費助成事業(R4~)
学習eポータルやAIドリルの導入(R4~)
本土遠征費支援の高校生までの拡充(R4~)
ほこらしや奄美音楽祭(R4~)
子どもの家庭生活実態調査事業(R5)
未来応援はぐくみプロジェクト(不妊検査費用助成・男性不妊治療への旅費・宿泊費助成, R5~)
奄美群島日本復帰70周年記念奄美市メモリアル事業(R5)
ワーケーション誘致事業(R5~)、政策アドバイザー事業(R5~)
繁盛店づくり事業(R5~)
賑わうまちづくり支援事業(R5~)
地域共創による高校みらいコンソーシアム事業(R6~)
空き家解消による住環境総合対策事業(R6~)
地域おこし協力隊の導入(R6~)
住用・笠利地区認定こども園整備事業(R6~)
保育人材確保に向けた官民連携円卓会議(R6)
遠方の分娩に係る旅費支援事業(R6~)
住用・笠利地域創生戦略の策定(R6)
自家用有償旅客運送事業(R6~)
子ども医療費の窓口負担をゼロ(R7~)
私立保育施設魅力向上等実行計画交付金(R7~)
宇宿貝塚史跡公園観光拠点再整備事業(R7)
友好都市交流促進事業(R7~)
eスポーツ普及啓発事業(R7)
あまみ不登校対策プロジェクト(R7~)
非課税世帯の給食費無償化(R7~)
遠方からの受診に係る妊婦健診助成事業(R7~)
住宅リフォーム等助成金の子育て世代の上限拡充(R7~)
指定文化財案内板整備事業(R7~)



【R8新規】

高校探求力向上プロジェクト事業
学校給食費無償化
子ども世界自然遺産実感実証事業
住用地区おむつ代助成事業
地域コミュニティづくり推進事業 など



V 市民に身近で頼りになる基盤づくり	4.3
○市民・民間との「対話と連携」を進める市役所づくり	4.4
【75】市民との対話の場として「市民と語る会」を開催します。	5.0
令和4年度より実施し、6・7年度は市内8地区各2会場で行い、ほかにオンラインでの開催や高校・専門学校での開催、大阪・東京での開催など、常に創意工夫を心がけています。4年間で延べ72か所・1,865名にご参加いただきました。頂いたご意見を参考に、新たな事業が生み出されています。	
【76】あらゆる知恵を活かし、収入増加を目指します。	5.0
ふるさと納税における中間事業者の見直しやGCF（ガバメント・クラウド・ファンディング）の活用、ネーミングライツを市内6施設に設定、公共施設等民間提案制度による市有財産の有効活用、コクトくんLINEスタンプ発行など、あらゆる知恵を活かして収入増加を図っています。	
【77】デジタル化による行政サービスの向上を目指します。	4.5
「第2次地域情報化計画」に基づき、様々な観点からデジタルを活用した行政サービスの向上に取り組み、令和7年度には次期「DX推進計画」を策定し、さらなる向上に努めています。その中で、公共施設オンライン予約システム、オンライン相談窓口、マイナンバーカードを活用した「書かない窓口」、公式LINEによる公共物破損等通報システム、AIコクトくんによる問合せ対応、電子申請対応拡大などを導入・実施しました。	
【78】行政職員のテレワークを推進します。	4.0
「市職員のテレワーク実施に関する規定」を制定して、コロナ禍でのトライアルから、その後の正式導入に移行しました。また、令和7年度より電子決済システムや時差出勤（フレックスタイム）制度を導入して、職員の状況に応じた多様な働き方を進めています。	
【79】行財政改革を推進します。	4.0
コロナ禍における身の丈に合った事業見直しなど市全体で財政健全化に取り組み、令和7年度末起債残高496億円と、3年度末より73億円減少しました。また、同時期の基金残高は203億円で、同じく41億円増加しました。7年度末に「第3次財政計画」を策定・公表して財政の見える化を図るとともに、新たな起債発行枠等を設定しました。他にも、7年度に「全庁業務量調査・業務分析・BPR（業務改革）支援業務」を実施して、職員の業務効率化・適正化を図っています。	
【80】民間との協働による公共投資を進めます。	4.0
令和4年度に民間団体や地元金融機関等とともに「奄美市PPPプラットフォーム」を設立して、研修会・勉強会を実施してきました。また「PPP/PFI手法導入優先的検討規定」を定め、本市のあらゆる公共投資について優先的にPPP/PFIの活用を検討しています。そして、様々な公共施設等の整備にサウンディング型市場調査を行い、これにより宇宿貝塚史跡公園のリニューアルを実施しました。健康体験交流施設（タラソ奄美の竜宮）についてもこの手法を活用して再整備を図ります。	
【81】観光や環境対策など、広域行政を推進します。	4.0
観光や環境対策については、令和4年度より本市住用町の「奄美大島世界遺産センター」の運営を国・県・地元5市町村共同で行っています。また、本市の「世界自然遺産に関する新たな財源創設検討委員会」に地元4町村もオブザーバー参加を頂きました。5年度の「離島甲子園」合同開催、6年度の「奄美大島人口ビジョン2025」や「奄美大島地域公共交通計画」の策定、「奄美大島国民保護連絡調整協議会」の設立など、様々な課題・テーマについて広域行政を推進しています。	
【82】SDGs（持続可能な開発目標）の実践を推進します。	4.5
令和4年度より、官民連携した「SDGs推進プラットフォーム」を設立して、個人・企業・団体等多様な主体の参画を促すとともに、「あまみSDGsアクションプラン」の策定、「SDGs未来都市」の認定、「あまみSDGsアワード」での優良事例の表彰、「宇宿貝塚史跡公園のリニューアルとSDGs拠点としての活用」、「奄美版SDGsアイコンの作成」、様々な主体によるイベント開催と会員相互の支援など、多彩な取組を展開しています。	

○これからの奄振活用のための議論の展開		3.9
	【83】奄美群島振興開発特別措置法の延長・改正を死守します。	4.5
	関係する国会議員・中央省庁・鹿児島県・12市町村・民間等の総力を結集して、令和6年度に奄振法の延長・改正を成し遂げることができました。その際には「農業の振興、教育・文化の振興、移住・定住の促進、デジタルの活用、沖縄との連携」など、時代に即した課題・テーマについても法令や交付金の対象となるよう盛り込むことができました。	
	【84】物価高への対策としての物流費対策を研究します。	3.5
	小笠原諸島や伊豆諸島で行われている海上輸送費に係る補助制度（いずれも所管は東京都）について調査しました。人口や海上輸送距離などの違いはありますが、多額の予算がかかることが分かりました。移出・移入については、農林水産物等輸送コスト支援事業などで一定の産品への物流費支援があります。今後も国や県と連携して、調査・研究を深めます。	
	【85】新しい手軽な移動手段に対応した環境整備を検討します。	4.0
	奄美大島5市町村による「周遊観光環境構築事業」でモンベルフレンドエリア登録を行い自転車やeバイクによる周遊観光を促進しています。また、令和7年度に民間企業と電動キックボード活用についての連携協定を結び、観光地などにおける活用を図ってまいります。	
	【86】グリーン社会の実現に向けた議論と実践に取り組みます。	4.0
	令和5年度に世界自然遺産保全・活用プラットフォームにより「地球温暖化防止活動実行計画事務事業編・区域施策編」の改定・策定を行い、また、「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。上記計画に基づき、公共施設への太陽光発電設備と蓄電池の設置を進めるとともに、マイボトル活用を促す給水機の設置や電動アシスト自転車導入による公用車利用削減などに取り組んでいます。	
	【87】自然環境や景観に配慮した公共工事のあり方を研究します。	3.5
	地方道路等整備事業の住用・川内線整備により、小動物に配慮した側溝を設置しました。また、役勝・三川線災害復旧事業では、国立公園区域内において、色彩や輝度を考慮した資材を採用し、周辺環境との調和を図りました。	
○政策実現の進捗の市民への公開		4.5
	【88】マニフェスト(選挙公約)の実現進捗を公開します。	4.5
	マニフェストの進捗状況について、定期的に評価をして、HPなどで公表しています。これに基づき、様々なご意見を頂きながら、マニフェストが着実に進行するよう取り組んでいます。	

V 市民に身近で頼りになる基盤づくり

I 期目に取り組んだ主な事業

市民と市長のふれあい対話開催(全72回、参加者1,865名※R8.3月末時点)(R4~)
奄美市SDGs推進プラットフォーム事業(R4~)
公共施設オンライン予約システム事業(R5~)
オンライン相談窓口システム事業(R5~)
周遊観光環境構築事業(モンベルフレンドエリア登録, R5~)
ネーミングライツ事業(R5~)
奄振法の延長・拡充(R5)
公共施設等民間提案制度(R6~, 再掲)
書かない窓口導入(R6~)
AIコクトくんの導入(R6~)
物価高騰対策
(学校給食費助成、ほーらしゃ券、運転資金借入利子補給、高齢者施設等食材費支援)
みんなの公園みんなで育てるプロジェクト(R7~)
郵便局へのマイナンバーカード窓口拡大事業(R7~)
みんなのしまさばくり応援事業(R7~)
「あまみ未来会議」事業(R7~)
全庁業務量調査等事業(R7)

【R8新規】

幼稚園業務支援システム導入事業
公共施設包括管理業務
奄美大島共同キャンパス推進事業負担金
しあわせの島みんなで実現するぞ!プロジェクトチーム事業
証明書発行端末設置事業
証明書コンビニ交付利用促進事業 など

